

大型クラゲ分布調査

(有害生物出現情報収集・解析及び情報提供委託事業)

石原成嗣

1. 目的

日本沿岸に大量に来遊し、大きな漁業被害を与える大型クラゲの出現状況を、試験船並びに漁業取締船による洋上調査、操業漁船からの聞き取り調査等により把握する。また、当該情報を取りまとめ、漁業関係者に迅速に情報提供を行うことで漁業被害の低減に努める。

2. 方法

(1) 大型クラゲ沖合域分布調査

2023年8月21日～23日にかけて、試験船「島根丸」によりLCネット(網口の幅×高さが10m×10m)を用いた調査を行った。また、曳網中に船橋上両舷から目視調査を行った。調査は図1の定点にて実施し、LCネットを水深50mまで沈め、1分間斜め曳きを行った後、巻き上げ速度毎秒0.3mで揚網した。

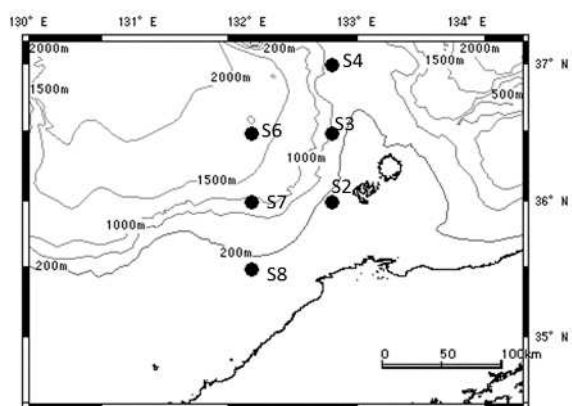


図1 洋上分布調査定点

(2) 洋上目視調査

2023年7月31日～8月1日にかけて、試験船「島根丸」で船上から目視による調査を実施した。調査は図2の定点にて実施し、2マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視されたエチゼンクラゲを大(傘径100cm以上)、中(傘径50～100cm未満)および小(傘径50cm未満)のサイズ別に計数した。また、8月～10月には漁業取締船「せいふう」の航行中に、定点を定めずクラゲ来遊状況の目視調査を行った。

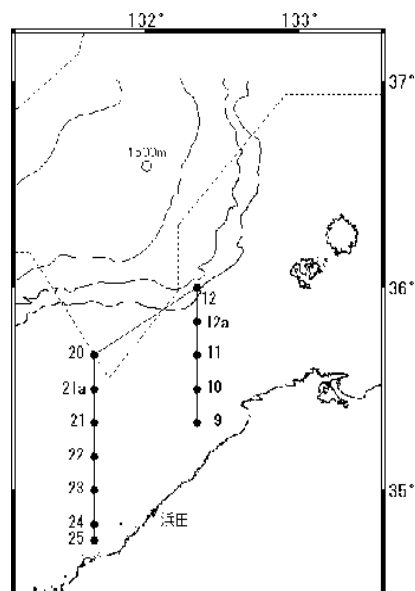


図2 島根丸洋上目視調査定点

(3) 陸上調査

8月～9月の間、漁業協同組合JFしまね各支所等へ電話による情報収集を行った。

3. 結果

(1) 大型クラゲ沖合域分布調査

全定点で大型クラゲは入網せず、目視によっても確認されなかった(添付資料「2023年度大型クラゲ分布調査結果」(以下同じ)表1)。

(2) 洋上目視調査

試験船「島根丸」による調査では、全定点で大型クラゲは確認されなかった。また漁業取締船「せいふう」による調査においても、全期間で大型クラゲは確認されなかった(添付資料表2)。

(3) 陸上調査

聞き取り調査を実施した8月から9月までの期間において、大型クラゲの目撃・入網の報告はなかった。(添付資料表3)。

4. 成果

調査結果は一般社団法人漁業情報サービスセンターに提供し、大型クラゲ出現情報として活用された。